

杜の都環境プラン
定量目標「猛禽類の生息環境」の
中間評価について

1. 杜の都環境プラン中間評価 ③猛禽類の生息環境に関する調査について

杜の都環境プラン

1. 脱炭素都市づくり

地球温暖化対策推進計画

2. 自然共生都市づくり

3. 資源循環都市づくり

一般廃棄物処理基本計画

4. 快適環境都市づくり

5. 行動する人づくり

前回中間評価報告時

定量目標	基準 (令和2年度)		実績 (令和7年度)
③猛禽類の生息環境 生態系の頂点に位置し、 良好な里地里山環境の 指標となる猛禽類 (オオタカ・サシバ)の生息 環境を維持・向上させる	オオタカ 生息適地	2,632.8 ha	2,691.1 ha +58.3 ha (2.2%増)
	サシバ 生息適地	634.1 ha	精査中 →今回調査結果を 踏まえた実績をご報告



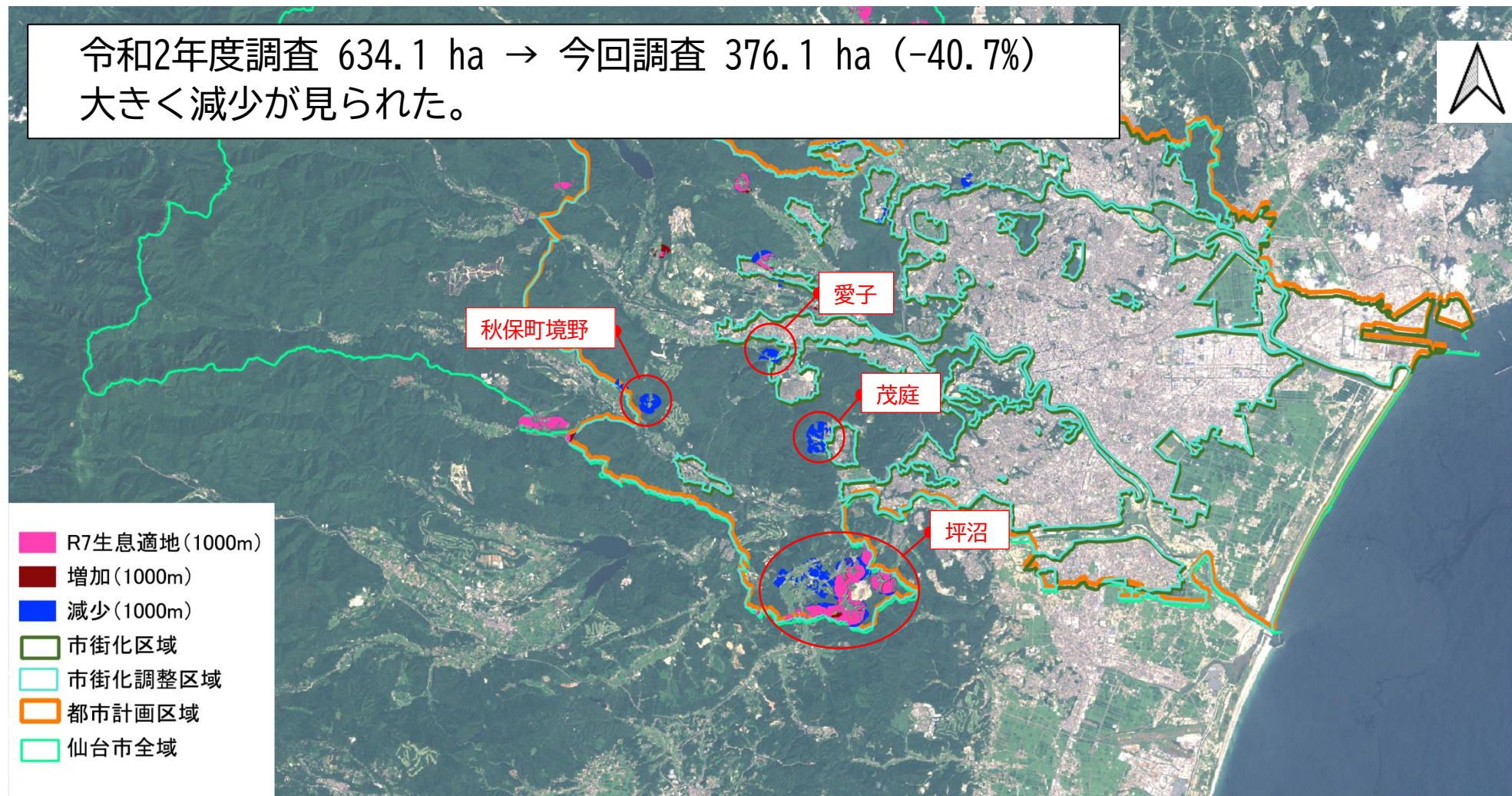
<サシバ>

- ・東北地方以南に夏鳥として渡来する中型の猛禽類
- ・南西諸島からフィリピンにかけての地域で越冬し、おもに両生類、爬虫類、昆虫類、小型哺乳類などを食物としている。
- ・環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類

写真出典：令和2年度仙台市自然環境に関する
基礎調査業務「猛禽類生息環境評価」報告書

2. 調査結果の概要

サシバ生息適地の概要（全体像）



特徴的な愛子、茂庭等において、現地調査や耕作に関する情報収集、有識者ヒアリング等を実施

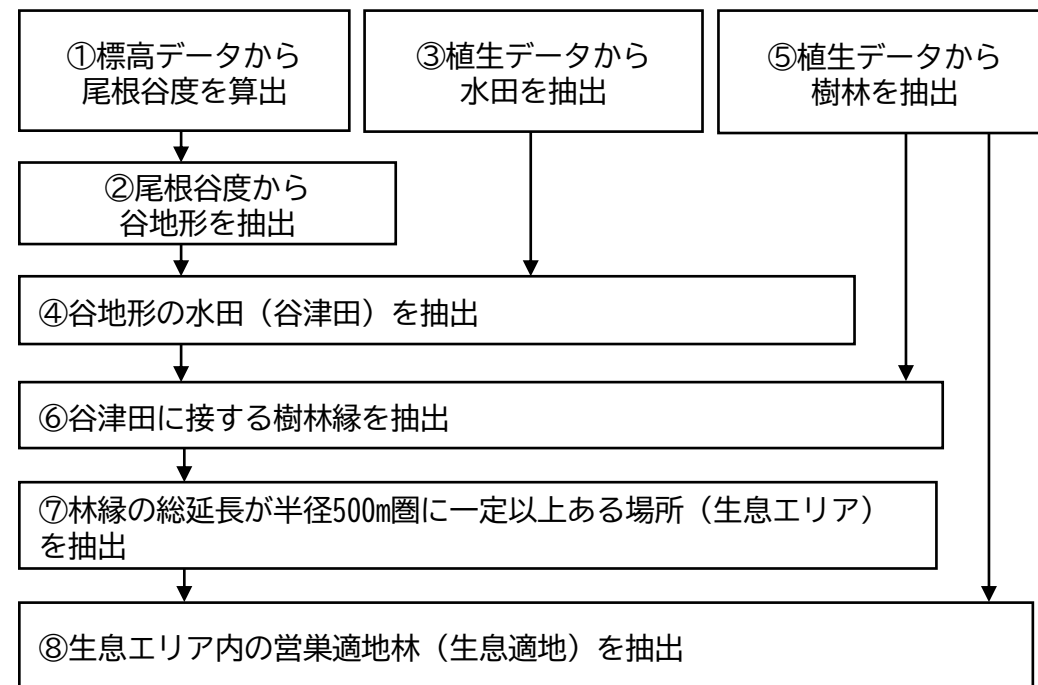
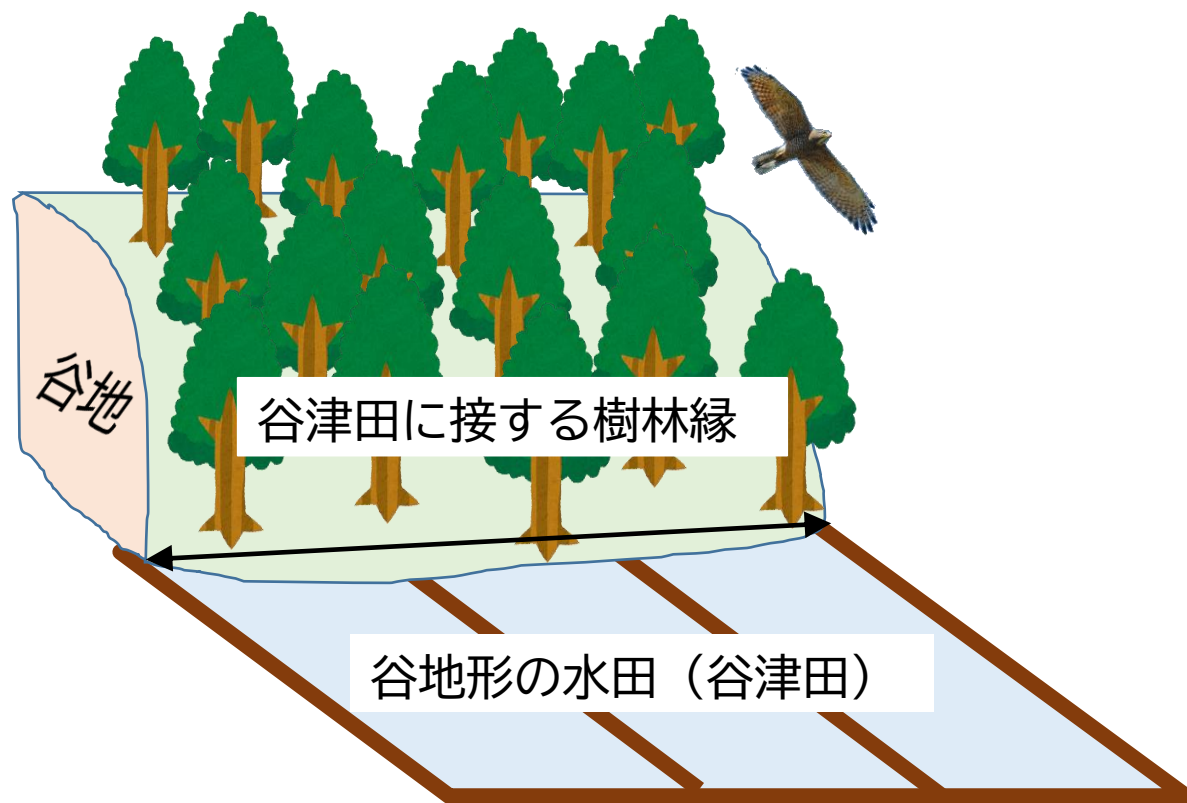
3. 調査方法

「サシバの保護の進め方（平成25年12月 環境省）」を参考に、

✓採餌に適した谷地形の水田（谷津田）の近くに一定以上の樹林縁が有る場所のうち、

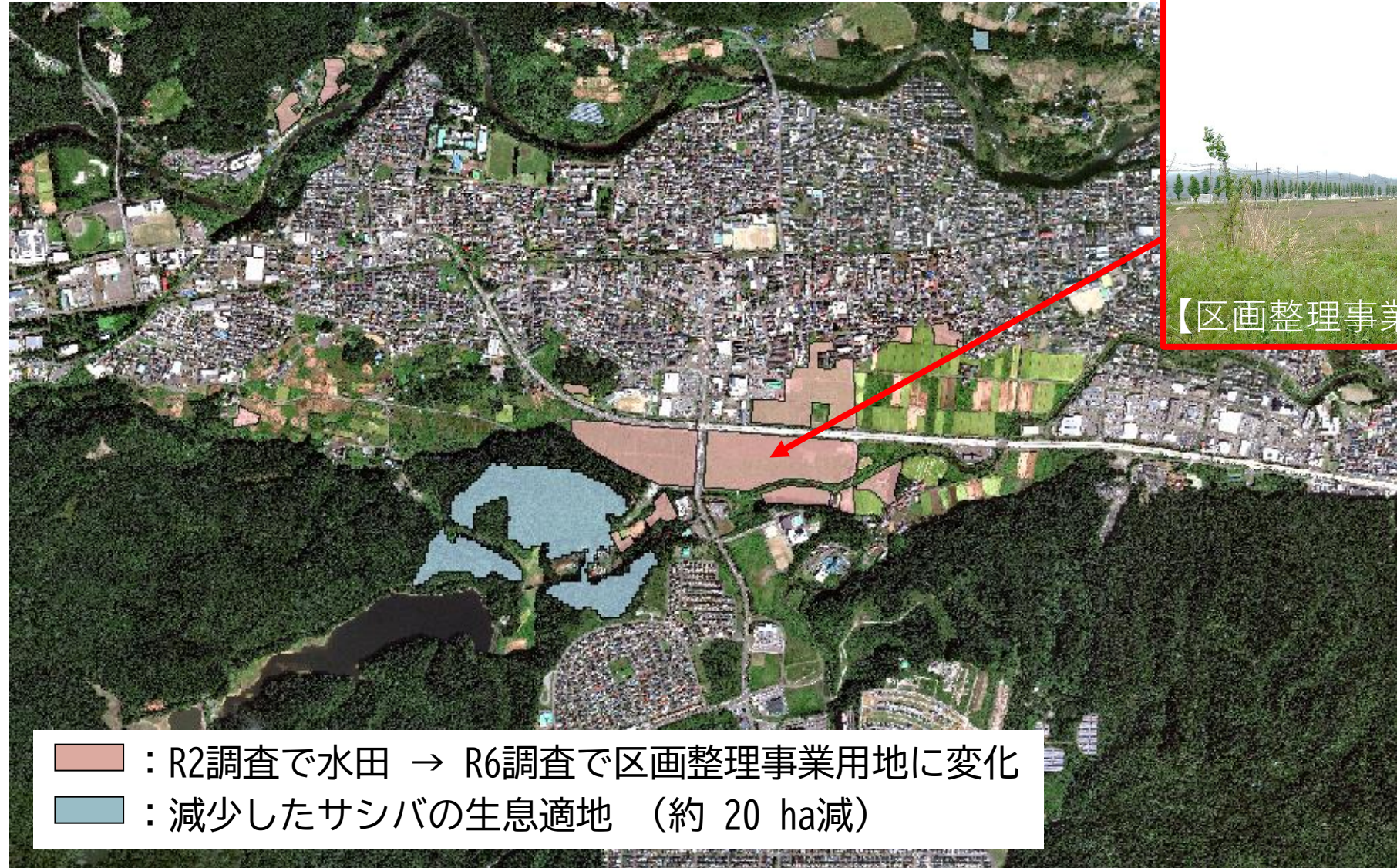
✓営巣に適した樹林の面積

について、航空写真や標高データ等を用いて算出



4. 大幅に減少した地区について ①愛子

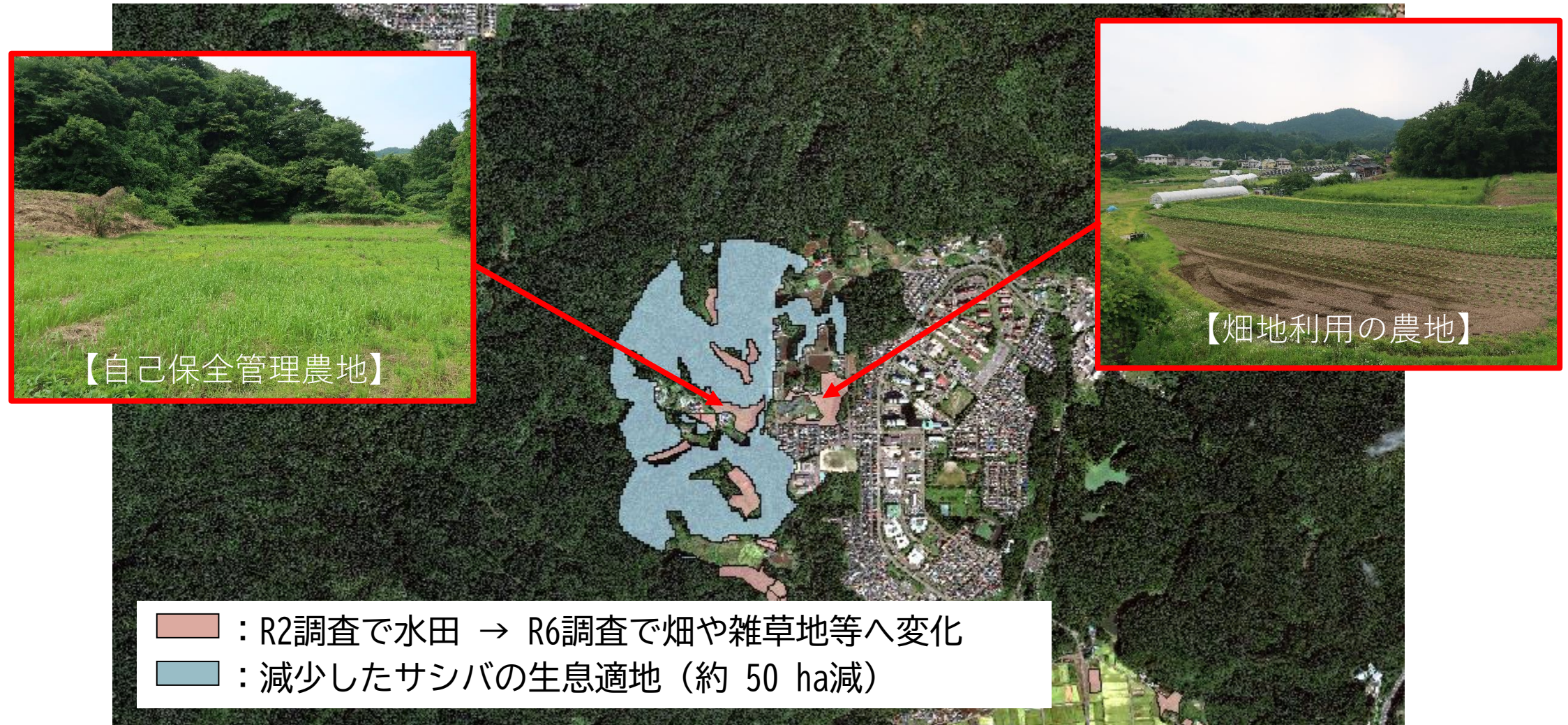
開発用地として確保され、水田ではなくなっている。



樹林地は残っていても、サシバの生息適地には算定されない。

4. 大幅に減少した地区について ②茂庭

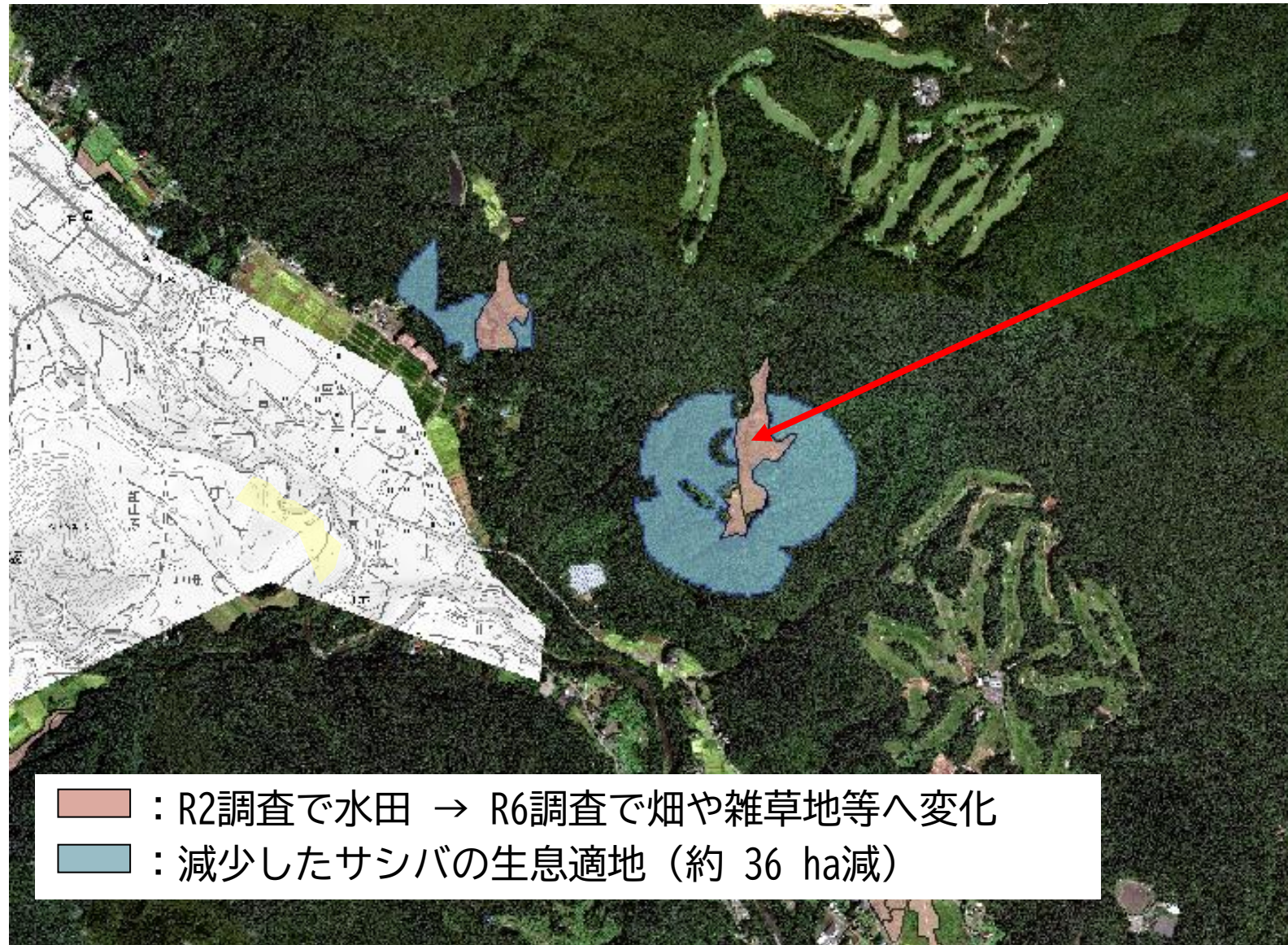
水田から畑への転換や自己保全管理農地※等になっている。
(※耕作はしていないものの、除草や耕起など管理を行っている農地)



水田使用されなくなる面積が比較的小さくても、一帯の樹林地がサシバの生息適地に算定されなくなる。

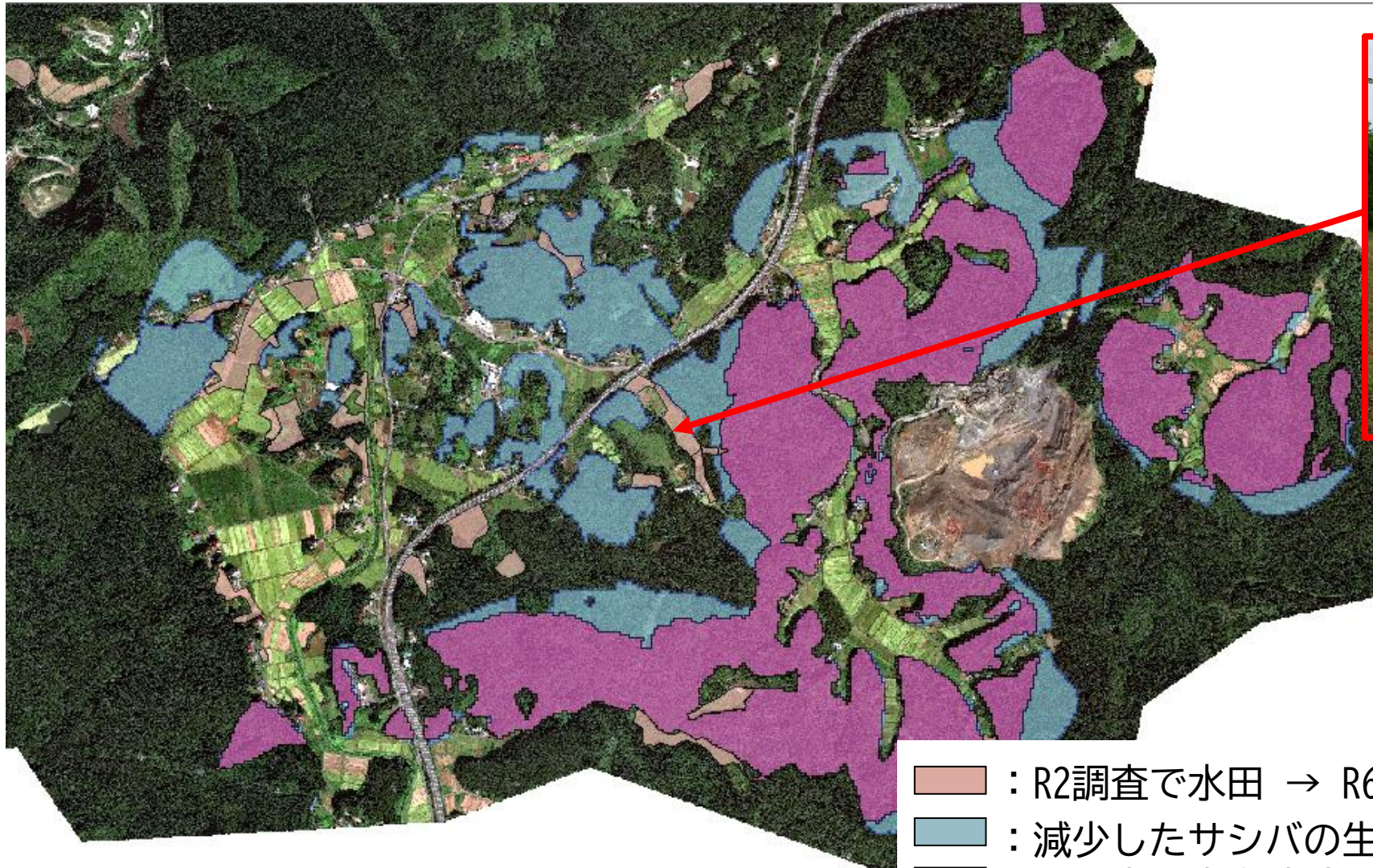
4. 大幅に減少した地区について ③秋保町境野

水田として使用されなくなり、雑草地等となっている。



4. 大幅に減少した地区について ④坪沼

一部は水田として使用されなくなり、畑や雑草地となっている。



地域全体としては生息適地が残っている。

5. サシバ生息適地の調査結果のまとめ

○ 調査結果概要

- ・ 令和2年度調査 634.1 ha に対し、今回調査では 376.1 ha と減少が見られた。
- ・ 開発による非農地化や水田から畑への転換、山間部の稲作の休耕による自己保全管理農地の増加などにより、谷地形の水田が減少したことが主な要因と考えられる。

○ 有識者からの聞き取り

- ・ 環境省の手引きに基づいて行った本調査結果は、「平均的な生息適地」を抽出する形でモデル化されており、全体として妥当な結果との見解が得られた。
- ・ なお、市内におけるサシバの個体数は長期的には減少傾向を示しており、水田の減少による採餌環境の劣化のほか、ノスリやクマタカとの競合・捕食関係なども影響している可能性も示唆された。

6. 中間評価について

○ 定量目標 ③猛禽類の生息環境の中間評価

サシバは減少しているものの、オオタカは増加していることから△とする。

定量目標	基準 (令和2年度)	実績 (令和7年度)	中間評価
③猛禽類の生息環境 生態系の頂点に位置し、良好な里地里山環境の 指標となる猛禽類(オオタカ・サシバ)の生息環 境を維持・向上させる	オオタカの生息適地 2,632.8 ha サシバの生息適地 634.1 ha	オオタカの生息適地 2,691.1 ha サシバの生息適地 376.1 ha	△

※ 評価種別 ○：達成に向け進捗している △：一部遅れている ×：遅れている

○ 中間評価を踏まえた今後の取り組みの方向性

- ・ 谷地形の水田環境の保全につながるよう、農業施策担当部局と連携を図ってゆく。
- ・ 自然環境の保全や緑化推進に加え、里地里山を含めたネイチャーポジティブ実現に向け、市民団体や民間企業など多様な主体による活動を推進してゆく。